

牛久：学校周辺に見る自然

第42号 ひたち野うしく小

2020年11月23日発行

＜ 秋のみずべ公園 ～①チョウ・ガのなかま ＞

皆さん、こんにちは。^{おそ}遅くなってしまいましたが、ひたち野うしく小4年生と歩いた秋のみずべ公園(10月13, 15日)のようすをお届けしたいと思います。今回は、まずチョウやガのなかまから。



セイヨウタンポポの蜜を吸う、ツマグロヒョウモンのオス(左上)。交尾(左下：右側がメス)。さなぎ(右)。

皆さまおなじみの、ツマグロヒョウモン。オスが蜜を吸ってるのはセイヨウタンポポで、日本のタンポポは春にしか咲きませんが、セイヨウタンポポは秋遅くまで咲き続けます。

ツマグロヒョウモンはタテハチョウ科のなかまで、もともと南方系のチョウですが、もはや牛久市周辺ではごく普通に見られるチョウとなりました。



ツマグロヒョウモンのメスとちょっと似ていますが、こちらもタテハチョウ科のなかまで、ヒメアカタテハです。ミゾソバやハッカに来て、蜜を吸っていました。羽がもう、ぼろぼろですね。

幼虫、または成虫で冬を越すとされますが、このあたりではどうでしょう？よく似たアカタテハもありますが、冬に成虫を見かけたら、教えて下さいね。

ミゾソバの蜜を吸う、ヒメアカタテハ。



キタテハ。羽を閉じると枯れ葉のようで、「c」のマークがめだつ(左)。羽を開いて日向ぼっこしていることもある(右)。

続いて、キタテハ。こちらもタテハチョウ科のなかまで、成虫で冬を越します。羽を閉じると枯れ葉のようで、見失いがちです。



枯れ葉に擬態した、クロコノマチョウ。成虫で冬を越すと言われる、南方系のチョウ。

こちらは、もっと枯れ葉のようですね。クロコノマチョウといってもともと南方系のチョウですが、やはり牛久市周辺では普通に見られるようになりました。タテハチョウ科のなかまで、成虫で冬を越すと言われますので、もし冬に見ついたら教えて下さい。



クヌギの幹に産卵するメス
グロヒョウモン(左)と、
そのたまご(右)。

もう一つ、タテハチョウ科のなかま。クヌギの幹に腹を曲げて産卵しているメスグロヒョウモンがいました。このチョウの幼虫はスミレの葉を食べる

はずなんだが、何でクヌギの幹に？と思い調べ、「スミレの近くの木などのやや高いところに産卵する」ということを知りました。秋にふ化して、幼虫のまま何も食べずに越冬するそうです。



カタバミの蜜を吸うベニシジミ（上2枚）と、ヤマトシジミ（左下）。



続いて、シジミチョウ科のなかま。カタバミにはベニシジミとヤマトシジミが、ヒカゲイノコヅチにもベニシジミが、そしてムラサキツメクサにはツバメシジミが来て、蜜を吸っていました。中には羽がぼろぼろのものもありますが、それでも力のかぎり生きています。幼虫で越冬します。



ヒカゲイノコヅチの蜜を吸うベニシジミ（左）と、ムラサキツメクサの蜜を吸うツバメシジミ（右）。

こちらは、キタキチヨウ。3年生で育てたモンシロチョウと同じ、シロチョウ科のなかまです。幼虫はハギやネムノキなどの葉を食べるので、みずべ公園では腹を曲げてハギの枝に産卵している姿がよく見られます。



キタキチヨウの求愛（左）。ミゾソバの蜜を吸うキタキチヨウ（中）。コセンダングサの蜜を吸うキタキチヨウ（右）。



ミソソバの蜜を吸うイチモンジセセリ（左）と、オオチャバネセセリ（右）。

一見ガのように見えるセセリチョウ科のなかまも3種類見られました。よく似たイチモンジセセリとオオチャバネセセリは、同じミソソバで蜜を吸っていました。羽の白いもようが小さくて目だたないチャバネセセリも、いろいろな花で蜜を吸っていました。



ミソソバ（左）、カタバミ（中）、ムラサキツメクサ（右）の蜜を吸うチャバネセセリ。

最後に、ガのなかま。土にもぐっていくガの幼虫を見つけてくれました。モモスズメというスズメメガ科のなかまですが、おそらくさなぎになりかけのものと思います。その他、マイマイガの卵かいやヤマトカギバなどが見られました。

【理科支援員：宮内】



土にもぐり、さなぎになろうとするモモスズメの幼虫（左）。マイマイガの卵かい（右）。



ヤマトカギバ（左）と、名前が分からなかったガ（中、右）。